

イチゴ「ふくあや香」の無加温半促成栽培のための低温遭遇時間と休眠覚醒のための低温要求量

福島県農業試験場 野菜部
平成17年度試験成績概要
分類コード 03-07-01041800

部門名 野菜—イチゴ—品種、生理・生態、作型・栽培型
担当者 山内富士男・雨宮潤子・新野美佐子・大竹祐一

I 新技術の解説

1 要旨

イチゴ「ふくあや香」の無加温半促成栽培における適正な保温開始の目安となる5℃以下低温遭遇時間を明らかにするとともに、親株から採苗する場合の条件となる休眠覚醒のための5℃以下低温要求量を明らかにする。

- (1) 無加温半促成栽培における保温開始の目安は、初期収量が多く、かつ商品果収量が多く、大玉果比率が高くなる、5℃以下低温遭遇時間150時間程度が適当である(図1、図2)。
- (2) 「ふくあや香」のランナーの発生は、300時間で認められたことから、休眠覚醒するためには5℃以下の低温要求量が300時間程度必要である。

2 期待される効果

無加温半促成栽培における保温開始時期が明らかになることで、栽培管理が平準化し、高位安定生産が期待できる。また、ランナー発生のために必要である休眠覚醒のための低温要求量が明らかになることで、採果苗の安定確保が期待される。

3 適用範囲

ふくあや香の導入地域

4 普及上の留意点

栽培にあたっては、半促成栽培での低温遭遇時間と休眠覚醒での低温要求量を混同しないように注意する。

II 具体的データ等

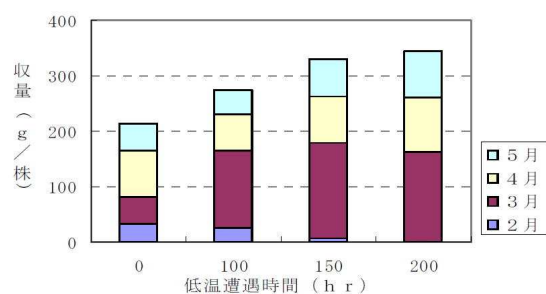


図1 低温遭遇時間と月別商品果収量 (株当たり)

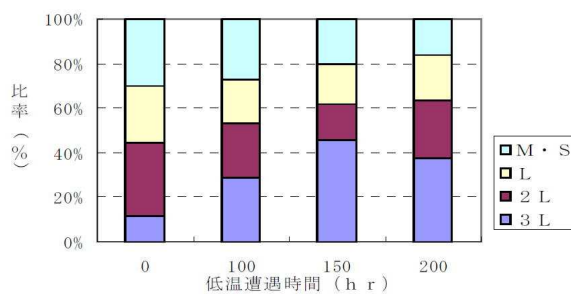


図2 低温遭遇時間と規格別商品果収量比率

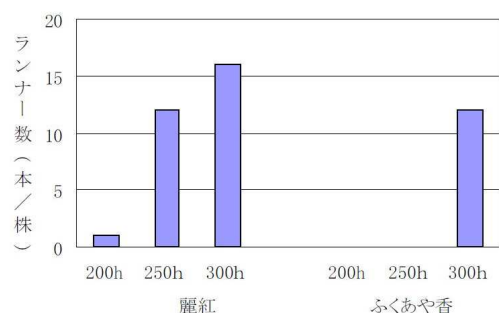


図3 低温遭遇時間別ランナー発生数

Ⅲ その他

1 執筆者

山内富士男

2 主な参考文献・資料

なし